

答 申 書 (案)

平成 2 5 年 1 2 月 1 0 日

京都市長 門川 大作 様

京都市環境影響評価審査会
会 長 池 田 有 光

平成 2 5 年 1 1 月 2 6 日付環環管第 3 8 号をもって諮問のありました「奈良線第 2 期複線化事業に係る配慮書案」について、慎重に検討を行った結果、下記のとおり答申します。

記

1 全般的事項

- (1) 事業の実施に伴い重大な影響を受けるおそれのある環境要素が、適切に選定されている。
- (2) 従前より第二期計画として位置付けられていたこと、及び既存線路の複線化という特殊な事業特性から、事業に係る位置・規模に関する複数案の設定が現実的でないという考え方は、妥当と考えられる。

2 騒音及び振動

配慮書案に記載のとおり、住宅、学校及び病院等が近接する地点は当然のこと、その他の騒音等の影響を及ぼすおそれのある地点についても、方法書以降の手續において慎重な検討を行い、環境影響の低減を図ること。具体的には、実行可能な範囲でロングレールの採用及び遮音壁の設置等環境保全措置を検討されたい。

3 動物及び植物

重要な動植物種の生息環境に変化が生じる場合に限定し、適切な対策を講じると記載されているが、これは従来の環境影響評価における特殊性という側面のみを捉えたものである。生物多様性の観点から、典型的な生物種及びその生息状況（連続性の観点を含む）にも配慮すること。とりわけ、桃山御陵以南の巨椋池干拓地に至る範囲は、従来より良好な植生が形成され、多様な生物種が生息している可能性が高いことから、方法書以降の手續において、丁寧な現地調査を行い、必要に応じて適切な対策を講じること。

4 景観

既存線路に新たな線路を横付けする場合、景観への影響が新たに発生する可能性は大きくないと考えられるが、周辺の景観との調和に十分配慮すること。